

いつ、どこで、どんな事故が起きているのか

県内では、全体の交通事故の発生件数が減少傾向にある中、高齢ドライバーによる交通事故はここ数年横ばいになっています。高齢ドライバーの現状や交通事故発生状況について、佐沼警察署交通課の武田勝博課長に聞きました。



市内では、国道346号や県道古川佐沼線などの交通量が多い幹線道路で事故が多発

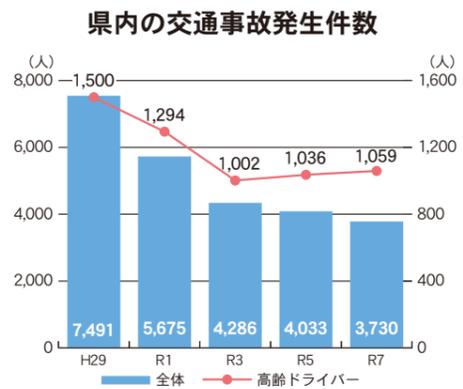
平穏な日常を奪う交通事故
令和7年中、県内での交通事故は3730件発生し、年々減少しています。市内では61件で、令和6年より34件減少しました。市内の死亡事故は、令和6年に2件発生し、人口1万人当たりの死亡事故件数が県平均よりも高くなりましたが、令和7年は発生しませんでした。交通事故の発生件数が減少してきたのは、自動車の安全性性能の向上や道路環境の整備が進んできていること、そして交通安全団体の啓発活動によって、社会全体の交通安全意識が高まってきたからだと考えられます。
県全体の交通事故件数は減ってきていますが、高齢ドライバーによる発生件数は令和3年以降ほぼ横ばいになっています。

交通事故は、午前10時台と午後2時台に多く、ほかの世代と比較して交差点や駐車場が発生する割合が高くなっています。出会い頭の事故が全体の約3割で最も多く、次に多いのが追突事故です。これは、加齢に伴う認知機能の低下による標識の見落としや、柔軟で瞬間的な判断力と反射神経が鈍くなることで、とっさの対応が遅れることが原因だと考えられます。



佐沼警察署交通課 課長 武田 勝博さん

また、アクセルとブレーキの踏み間違いによる事故も依然として発生しています。
交通事故の防止は「自覚」から
交通事故を防ぐためには、身体能力の低下や瞬間的な対応が困難になっていることを自覚することが大切です。高齢者マークは、70歳以上75歳未満で運転に不安を感じ始めた人は表示し、75歳以上の人は表示が義務になります。マークを表示することで自覚を持って運転を見直し、また周囲に知らせることで防止につながります。そして、一般ドライバーは子どもや高齢歩行者などをよく確認し、ゆとりと適度な緊張感を持って運転するように心がけてください。



高齢者の免許保有者数が増加

県内の高齢者の運転免許保有者数は、10年前が約30万人だったのに対し、現在は約40万人まで増加しています。高齢ドライバーの割合も増加傾向にあります。

交通事故から大切な人を守る

自信と過信

全国的にも宮城県内でも、交通事故死亡者数の半数以上が高齢者。65歳以上の高齢ドライバーの割合は年々増加し、75歳以上になると重大事故の発生割合がさらに高くなるといわれています。一方で、本市は車がないと生活に支障が出る地域が多く、危険だと分かっても運転免許を手放せないのが現実です。

核家族化による高齢者世帯の増加など、時代とともに変化する生活スタイルを変えることは難しいですが、私たち次第で減らせる交通事故はあるはずですよ。

今号では、高齢ドライバーによる交通事故の現状から、安心して暮らせるまちにするために、私たち一人一人に必要な交通安全の鍵を探します。

